

1. 重要無形文化財の指定及び保持者の認定（各個認定）

年齢は令和7年7月18日現在

重要無形文化財	保 持 者		
名 称	氏名（芸名・雅号）	生年月日（年齢）	住 所
（芸能の部）			
ときわ ずぶししゃ みせん 常磐津節三味線	たんざわ まさあき 丹澤 正明 ときわ ず と き ぞう （常磐津 都毘蔵）	昭和17年2月19日 （満83歳）	京都府京都市
（工芸技術の部）			
ゆう か さい 釉下彩	なか だ かず お 中田 和雄 なか だ かず お （中田 一於）	昭和24年3月15日 （満76歳）	石川県小松市

2. 重要無形文化財の保持者の追加認定（各個認定）

年齢は令和7年7月18日現在

重要無形文化財	保 持 者		
名 称	氏名（芸名・雅号）	生年月日（年齢）	住 所
（芸能の部）			
しゃくはち 尺八	ぜんよう じ けいすけ 善養寺 恵介	昭和39年3月13日 （満61歳）	埼玉県所沢市
（工芸技術の部）			
きゆうしつ 髹漆	はやし さとる 林 暁	昭和29年4月25日 （満71歳）	富山県高岡市
ちょうきん 彫金	おくむら まさゆき 奥村 雅幸 おくむら こう き （奥村 公規）	昭和25年7月11日 （満75歳）	東京都東久留米市
もく こうげい 木工芸	わたなべ あきら 渡辺 明 わたなべ あき お （渡辺 晃男）	昭和28年6月13日 （満72歳）	東京都多摩市

重要無形文化財の保持者の追加認定(各個認定)解説

1 尺八 しゃくはち 善養寺 ぜんようじ 恵介 けいすけ

「尺八」は、令和4年10月31日に重要無形文化財に指定され、現在、保持者として野村正也（芸名 のむらまさや 野村峰山 のむらほうざん）氏が認定されている。現保持者に加えて、善養寺氏を保持者として「追加認定」するものである。



（善養寺 恵介 氏）



（演奏中の善養寺氏）

（１）重要無形文化財「尺八」について

尺八は竹製縦吹き of 管楽器の一種で、雅楽に使用した「古代尺八」、一般的な尺八より短く、近世に流行した「一節切」ひとよぎり、普化宗ふけしゅうで用いた「普化尺八」、さらに普化尺八を基にした「新尺八」などがある。古代尺八や一節切による演奏伝承は途絶えたが、江戸時代に普化宗の法器として普化僧こむそう（虚無僧）によって演奏された普化尺八（虚無僧尺八）は、江戸時代中期に初代黒澤琴古くろさわきんこによって集成され、これが琴古流の系統となった。江戸時代には尺八を一般には奏することが出来なかったが、明治4年に普化宗が廃されて後は、広く人々によって愛好されるようになり、洗練された。息遣い、指遣い、首の操作などによって様々な音色、音の強弱や揺れなどを作り出し、精神性をも感じさせる表現を創出する。尺八本曲の演奏に加え、箏や三絃との合奏も行われ、日本伝統音楽の一つとして特色を発揮している。流派には、琴古流や都山流とざんをはじめ、

上田流、竹保流、尺八古典本曲の傳承に注力する明^{ちくほ} 暗^{みょうあん}各派がある。

以上のように、尺八は、芸術上特に価値が高く、我が国の音楽史上特に重要な地位を占めるものである。

(2) 保持者の認定について

①保持者

氏 名 善養寺 恵介

生年月日 昭和39年3月13日（満61歳）

住 所 埼玉県所沢市

②保持者の特徴

同人は、尺八古典本曲に本格的に取り組む数少ない演奏家として、その演奏技法を高度に体現し、卓越した技量を示している。また、斯界の発展及び後進の指導・育成にも尽力している。

③保持者の概要

同人は、各地に伝わる尺八古典本曲の集成を行った根笹派錦風^{ねざさ きんぷうりゅう} 流^{じんにょどう}の神如道の門人であった父から、6歳より尺八の手ほどきを受け、さらに岡崎自^{おかざき じ しゅう} 修^{おかもとちくがい}、岡本竹外^{じん}、神如^{によしょう} 正^にに師事して尺八古典本曲の習得に努めた。昭和59年、東京芸術大学音楽学部邦楽科に入学して後は、大学及び大学院を通して琴古^{きん こ りゅう} 流^{やまぐち ごろう}の山口五郎（平成4年重要無形文化財「尺八」（各個認定）保持者）に師事して芸域を広げた。大学院を修了した平成2年には第11回舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」（国立劇場主催）に出演するなど、同人の確かな演奏には早くから信頼が寄せられた。以後、今日に至るまで研鑽に励み、意欲的に演奏活動を展開し、尺八古典本曲に本格的に取り組む数少ない演奏家として、斯界において重要な地位を占め、活躍している。

尺八の吹奏を修行とみなす虚無僧尺八を原点とする同人は、尺八古典本曲において求道的な音作りを行い、虚無僧尺八が追求する深い精神性を高度な演奏技法によって表現して高く評価されている。また箏、三絃とのいわゆる三曲合奏では曲趣を捉えた音色と調和のとれた吹奏により優れた演奏成果を示し、地歌箏曲演奏家からの信頼も厚い。このような同人の演奏に対しては、平成29年度（第72回）文化

庁芸術祭（音楽部門）大賞や平成29年度（第68回）芸術選奨音楽部門文部科学大臣賞、紫綬褒章等が贈られている。

また、自身の弟子を指導するほか、東京芸術大学等において非常勤講師を務めるなど、斯界の発展や後進の指導・育成に尽力している。

以上のように、同人は尺八の技法を正しく体得し、かつ、これに精通するとともに、その技法を高度に体現している。

④保持者の略歴

- 昭和45年 父の手ほどきで尺八を学び始める
同 51年 おかざき じ しゅう 岡崎自修に師事
同 55年 おかもとちくがい 岡本竹外に師事
同 57年 じんによしょう 神如正に師事
同 59年 やまぐち ごろう 東京芸術大学音楽学部邦楽科に入学し、山口五郎（重要無形文化財「尺八」（各個認定）保持者）に師事
同 63年 東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業
平成 2年 東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
同 年 第11回舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」（国立劇場主催）に出演
同 3年 東京芸術大学音楽学部邦楽科非常勤講師（同5年まで、同7年から同9年まで）
同 11年 第1回リサイタル開催（これまでに16回開催）
同 14年 第6回ビクター伝統文化振興財団賞「奨励賞」（現 日本伝統文化振興財団賞）
同 18年 やま と しょう わ 山田流箏曲の山登松和と共に「ZEN YAMATO」開催（これまでに18回開催）
同 21年 有明教育芸術短期大学音楽教養学科非常勤講師（同29年まで）
同 年 平成20年度（第63回）文化庁芸術祭（音楽部門）新人賞
同 22年 平成21年度（第64回）文化庁芸術祭（音楽部門）優秀賞
同 29年 山田流箏曲・尺八・邦楽囃子の有志と共に「邦楽ぐる一ふしょう 翔の会」開催（これまでに7回開催）
同 30年 平成29年度（第72回）文化庁芸術祭（音楽部門）大賞
同 年 平成29年度（第68回）芸術選奨音楽部門文部科学大臣賞
令和 元年 たかはしすいしゅう 胡弓の高橋翠秋、ふじもとあきこ 地歌の藤本昭子、つるざわ つ がじゅ 義太夫節三味線の鶴澤津賀寿と共

に演奏ユニット「SATZ（ザッツ）」開催（これまでに4回開催）

同 2年 紫綬褒章

同 4年 一般社団法人日本尺八演奏家ネットワーク理事（現在に至る）

（3）備考

同分野の既認定者

（死亡解除）

のうとみ やすじ 納富 安治（芸名 のうとみ じゅどう 納富 寿童）（昭和42年4月10日指定・認定～同51年2月24日指定・認定解除）

やまぐち ごろう 山口 五郎（平成4年5月15日認定～同11年1月3日認定解除）

しまばら しげぞう 島原 重蔵（芸名 しまばら はんざん 四世 島原 帆山）（昭和57年4月20日指定・認定～平成13年12月15日認定解除）

やまもと やすまさ 山本 泰正（芸名 やまもと ほうざん 山本 邦山）（平成14年7月8日認定～同26年2月10日認定解除）

あおき しずお 青木 静夫（芸名 あおき れいおう 青木 鈴翁）（平成11年6月21日認定～同30年8月21日指定・認定解除）

（現保持者）

のむら まさや 野村 正也（芸名 のむら ほうざん 野村 峰山）（令和4年10月31日指定）